

【最優秀賞入賞作品】

僕の夢と父の背中

群馬県立高崎工業高等学校 電気科 3年
萩原 祥吾

僕が電気の勉強をするきっかけとなったのは、父の仕事です。僕は工作が好きで、小さい頃から大工になるのが夢でした。中学校の職業体験学習の一環で、父の仕事調べ、責任の大きな仕事だと知りました。ここから僕の夢は変わり始めます。

父は電気主任技術者で、電気設備の保守点検の業務をしています。電気を使用するには発電所、変電所、送電線、受電設備、屋内配線などが必要になります。そして、父の仕事は受電設備の点検がメインになります。銀行やショッピングモールは昼間に電気がストップできないので夜間の仕事を中心となり、24時間稼働させている工場や電気が止められない病院などは、正月、お盆といった日も仕事になります。

相手先の都合により仕事日が決まるので定休日はなく、さらに、緊急時に備えて夜勤もあり、父は時々「お父さんの仕事はオススメしないぞ」と言っています。親としては、ゴールデンウィークや夏休みに、あまり遊びに連れて行ってやれないのが嫌なのかもしれません。でも、父はこの仕事を好きだと思っているように感じます。実際に働く姿をみたことがある訳ではありませんが、父がつぶやく「今日は夜、仕事だ」「明日は、朝早いんだ」といった言葉から辛そうな印象は受けず、むしろ生き生きとした印象を受けるからだと思います。

高校に入学してすぐに、第一種、第二種電気工事士と第三種電気主任技術者の取得をしようと決めて、勉強を始めました。申込みの関係で受ける順序が第一種電気工事士からになり、1年生の夏休みは部活をしてから午後4時間勉強という日々を送りました。なんとか筆記試験に合格し、先生方の協力を受け、実技試験も合格することができました。先に第一種電気工事士を取得していたので、2年生で受けた第二種電気工事士は危なげなく合格することができました。そして、2年生の夏からは電験三種取得に動き出しました。高校生で受ける人は珍しく、受かる人はその中の一握りだと思います。電験は出題範囲が広く計算も複雑になっていて、電気工事士に比べるとはるかに難しい内容です。授業で扱わなかったところもあり、勉強は思うように進まず、去年の試験では法規のみの合格でした。今年は勉強量を増やし残りの3科目の合格を目指します。

現社会は電気に頼るところが大きく、使えなくなれば全く機能しないといえます。父の仕事は社会を動かす歯車の軸と言って良いほど重要な仕事だと思います。気がつくと父は僕の憧れとなっていました。

今、僕の夢は、父のような電気主任技術者になることです。